

『三母広注』の菩薩観

庄 司 史 生

1. はじめに

本研究は、インド仏教における『十万頌般若』、『二万五千頌般若』、『一万八千頌般若』、『八千頌般若』等の〈般若経〉の受容と展開について、注釈文献による解説の読解を通して明らかにすることを目的とする⁽¹⁾。特に本稿では非アピサマヤ系の般若経注釈文献のうち、「三門十一異門」説の立場から〈般若経〉を解説した『三母広注』（九世紀までに成立）をとりあげ、そこみられる菩薩観を明らかにすることを旨とする⁽²⁾。著者が明記されず、また蔵訳のみが現存する同注は、後のインド・チベット仏教における〈般若経〉解釈の主流となることはなかったためか、仏教学研究においてとりあげられることがほとんどなく、その思想内容も不明な点が多い⁽³⁾。

本稿では、『三母広注』と同様に著者が不明であり、かつ「三門十一異門」説に基づき〈般若経〉を解説する『十万頌広注』（九世紀までに成立）と『世尊母伝承随順』（十二世紀成立）を必要に応じて参照し、それらの試訳を提示し、その菩薩観について考察する。

2. 『三母広注』における三門（略説・中説・広説）中の「略説」の説明

『三母広注』に示される「三門」とは次の通りである⁽⁴⁾。

【図1】

三門	{	略説……第2章冒頭のみ（略説により理解する所化のため）
		中説……第2章から第14章冒頭まで（詳説により理解する所化のため）
		広説……第14章以降（教導によって導かれる所化のため）

略説とは、『三母広注』によると世尊によるシャーリプトラに対する次の一文をさす。

今や、この略説の語の意味が説かれるべきである。〔略説の語とは〕「〈1〉シャーリプトラよ、〈2〉ここで、〈5〉一切法の〈6〉すべての相の〈7〉現等覚を欲する〈3〉菩薩〈4〉摩訶薩は、〈8〉般若波羅蜜を修習すべきである⁽⁵⁾」というものである。

そこで〈1〉「シャーリプトラ」というのは〔シャーリという〕上座〔シャーリプトラ〕の母の名と同じように〔そのように〕呼ばれたのである。〈2〉「ここで」というのは「大

乗の説示において」、あるいは「般若波羅蜜の説示において」をさすのである。菩薩摩訶薩が「この」大乘「において」住する、あるいは「この」般若波羅蜜「において」というところに結びつくのである⁽⁶⁾（以下略）。

このように「三門」の「略説」とは、〈般若経〉の冒頭における世尊がシャーリプトラへと述べた一文を指している。「略説」では、この一文を〈1〉から〈8〉までの八句に分解し、それぞれについて解説する。

3. 「略説」中にみられる「菩薩」理解①

略説の八句中、第三の項目が「菩薩」であり、そこで『三母広注』は「如来蔵」に言及しながら説明を与える⁽⁷⁾。以下は『三母広注』第四巻からの引用である。

〈3〉「菩薩」というのであるが菩薩には二種がある。世俗の菩薩と勝義の菩薩とである。正等覚と衆生を所縁として最初に心を発こすことから、菩提（*bodhi）と衆生（sems can; *sattva）を所縁とするために、菩薩といわれるのである。その心（sems）が有るということにおいてまた菩薩といわれるのである。〔『菩薩地』にあるように〕「おお、私は、無上正等覚を現等覚してから、一切衆生を畢竟究竟涅槃（shin tu mthar thug pa'i mya ngan las 'das pa; *atyanta-niṣṭha-nirvāṇa）に起たせるべきである⁽⁸⁾」と考え、菩提と衆生を所縁として世俗と勝義という二諦にとどまり、慧と悲という二つの宝石の心が生じることを具えるから、菩薩といわれるのである。歓喜（rab tu dga' ba; *pramudita）等の十の心が生じることに於いて、菩薩といわれるのである。

他の阿闍梨たちの説には「一切衆生は如来蔵である⁽⁹⁾」とみられることから、一切衆生は真如より顕現したもの（rab tu phyee ba; *prabhāvita）である。その真如においてはまた三つの分位（gnas skabs; *avasthā）がある。〔1〕不浄なる分位と、〔2〕浄不浄なる分位と、〔3〕極浄なる分位である。そこで〔1〕不浄なる分位とは、一切の凡夫において菩提（*bodhi）の分位はなく、ただ衆生（sems dpa'; *sattva）の分位のみであることから、その〔不浄なる〕真如において「衆生」という名で呼ばれるのである。〔2〕浄不浄なる分位の聖者らにおいては、菩提の分位と衆生の分位という二つ〔の分位〕があり、その浄不浄なる真如において「菩薩」という名で呼ばれるのである。〔3〕〔極〕浄なる分位というときには、ただ菩提の分位のみであることから、その〔極浄なる真如の〕時、その真如において「如来」という名で呼ばれるのである。〔『金剛般若』 § 17c に〕「スプーティよ、「如来」というのは、それは真実の真如（yang dag pa de bzhin nyid; *bhūta-tathatā）の異名なのである⁽¹⁰⁾」と説かれるが如くである⁽¹¹⁾。

このように、『三母広注』では菩薩を世俗と勝義に分け、またその際に恐らくは『菩薩地』に基づき「菩薩 (bodhi-sattva) は菩提 (bodhi) と衆生 (sattva) を所縁とする」と説明する⁽¹²⁾。ただし、『三母広注』による限り、世俗の菩薩と勝義の菩薩との相違が明言されていない。この点について、『十万頌広注』と『世尊母傳承随順』を参照すると、それらに並行文があり、『三母広注』よりやや詳しい解説がみられる。次の通りである。

『十万頌広注』

〈3〉「菩薩」というのであるが菩薩には二種がある。世俗の菩薩と勝義の菩薩とである。そのうち、世俗の菩薩というのは、正等覚と衆生を所縁として最初に菩提に心を発す。「おお、私は、無上正等覚を現等覚してから、一切衆生を畢竟究竟涅槃に起たせるべきである」と考え、菩提と衆生を所縁として慧と悲という二つにより世俗と勝義の二つの諦にとどまり、宝石としての菩提の心が生じることを具えたものが世俗の菩薩といわれるのである。そのうち勝義の菩薩といわれるのは、菩薩の歡喜地等の十地の発心を伴ったものたち〔であり、彼ら〕が勝義の菩薩といわれるのである⁽¹³⁾（以下略）。

『世尊母傳承随順』

〈3〉「諸菩薩」には二種がある。世俗の諸菩薩と勝義の諸菩薩とである。正等覚を現等覚してから私によって諸衆生らは畢竟安處究竟涅槃に善く安住されたということから正等覚と諸衆生らを所縁として最初に発趣する心 (jug pa'i sems)⁽¹⁴⁾が諸菩薩の所縁となるのであり、その故に菩薩といわれるのである。その心があることも菩薩といわれるのである。「おお、私は、無上正等覚を現等覚してから、一切衆生を畢竟究竟涅槃に起たせるべきである」と〔考え〕、菩提と衆生を所縁として世俗と勝義の二つの諦にとどまるのである。慧と悲の両者により起こされた宝のような心を持っているから菩薩といわれるのである。歡喜等の十の心を起こすものが勝義の菩薩といわれるのである⁽¹⁵⁾（以下略）。

以上のように『三母広注』では単に「菩薩」とあるところを、『十万頌広注』は「世俗の菩薩」や「勝義の菩薩」と明言し、『世尊母傳承随順』は一箇所について「勝義の菩薩」と述べて世俗と勝義の菩薩を区別しているものと考えられる。『十万頌広注』と『世尊母傳承随順』による説明を踏まえると、世俗の菩薩とは初発心の菩薩であり、勝義の菩薩とは歡喜等の心が生じた菩薩（華嚴十地の初地以降）と理解することができる。また「他の阿闍梨たちの説明」とある箇所が、『宝性論』第一章第四十七偈を想起させるといえる⁽¹⁶⁾。以上をまとめると次の通りである。

【図2】

菩薩	}	世俗の菩薩 ……菩提と衆生を所縁として初発心し、また慧と悲により	世俗諦と勝義諦にとどまる菩薩
		勝義の菩薩 ……歡喜地等の十地の発心を伴った菩薩	

【図3】

如来蔵 = 一切衆生 (一切衆生は真如より顕現)	}	真如		菩提の分位	衆生の分位
			[1] 不浄なる分位 ……衆生	×	○
			[2] 浄不浄なる分位 ……菩薩	○	○
			[3] 極浄なる分位 ……如来	○	×

4. 「略説」中にみられる「菩薩」理解②

次に『三母広注』第五巻にみられる「菩薩」理解である。この箇所の並行文は『十万頌広注』と『世尊母伝承随順』にはみられない。

〔そこで上述の〕「如来蔵」というのは真如であり、それにも三つの分位がある。〔1〕愚かな凡夫の地における不浄なる分位と、〔2〕菩薩の地における浄不浄なる分位と、〔3〕如来の地における〔極〕浄なる分位である。そこで〔1〕不浄なる真如においては、「衆生」というのである。またそれを「雑染の決定性」というのである。〔2〕浄不浄なる分位においては「菩薩」というのである。菩提の分位は浄であり、衆生の分位は不浄であるからである。それこそを「菩薩の決定性」というのである。〔3〕〔極〕浄なる分位においては、「如来」というのであり〔『金剛般若』 §17c に〕「スプーティよ、「如来」というのは、それは真実の真如の異名なのである」とあらわれているからである。まさにそれを「法の決定性」というのである。⁽¹⁷⁾

ここでもまた、先の例にみられた『宝性論』所説と思しき説を述べ、先と同様に『金剛般若』を引用し、「如来蔵」との関連から「菩薩」について説明していることがわかる。まとめると次の通りである。

【図4】

如来蔵 = 真如	}	[1] 愚かな凡夫の地における不浄なる分位 ……衆生 (雑染の決定性)
		[2] 菩薩の地における浄不浄なる分位 ……菩薩 (菩薩の決定性)
		[3] 如来の地における〔極〕浄なる分位 ……如来 (法の決定性)

5. 『三母広注』における「中説」中の「八相」の説明

次に「三門」中の「中説」説示箇所にも菩薩に関する解説がみられる。『三母広注』は全二十七卷からなるが、その第十卷の冒頭部から「中説」の「八相」中の「修習の説示の決定」に関する解説がはじまる⁽¹⁸⁾。

【図5】

中説＝八相	{	①修習すべき理由	⑤修習に対する教誡
		②修習の方法	⑥修習の功德
		③修習する人々の相	⑦修習の区別
		④修習する人々の区別	⑧修習の説示の決定

第十卷の冒頭より、次のように⑧「修習の説示の決定」について解説される。

第十卷。以上のように、修習には何相あるのかと問う句を分析して説いてから、今やこの「〔修習の説示の〕決定」の説示とは何かを問う句について説くべきである。そこで「シャーリプトラよ、ここで一切法のすべての相の現等覚を欲する菩薩摩訶薩は、般若波羅蜜を修習すべきである」という最初に出された略説が、今ここに説示されるのである。その「〔修習の説示の〕決定」にもまた二つの相がある。ことばの意味（tshig gi don）と相（mtshan nyid）⁽¹⁹⁾である。

以上のように、『三母広注』では上記箇所から「修習の説示の決定」の解説がはじまることが告げられている。次に示すように、『三母広注』では「中説」の「八相」の第八番「修習の説示の決定」において「菩薩という言葉の意味」という経文に対する説明中において「菩薩」に関する理解が示されている。

6. 「中説」中にみられる「菩薩」理解③

最後に『三母広注』第十卷にみられる「菩薩」理解である。

そこで〔経文に〕「スプーティよ、菩薩ということばの意味（句義：tshig gi don; *pada-artha）は〔菩薩には〕基体が無いという意味（無句義：gzhi med pa'i don; *apada-artha）なのであり⁽²⁰⁾」というのであるが、諸菩薩〔ということば〕の意味（don）には四種がある。

(a)菩提（*bodhi）と、(b)衆生（*sattva）と、(c)蘊を本性とする世俗の菩薩と、(d)勝義の菩薩である。またその四〔種〕の一つであっても実体が無いということ自性とするこ

から、「菩薩」ということばの意味は、基体とするものが無いということである。基体とするものが無いというのは、とどまるどころが無いこと（gnas med pa）をさすのである。もしも「菩薩」が実体を本性とするものであるならば、そのことばの意味（tshig gi don）は基体を伴い、とどまるどころを伴ったものとなる。〔しかし〕そのような(a)菩提と(b)衆生と、[(c)世俗と(d)勝義という] 二〔種〕の菩薩も存在しないのである。そのために、菩薩ということばの意味は基体が無いということであり、とどまるどころが無いと結論付けられるのである⁽²¹⁾（以下略）。

このように、上記箇所において『三母広注』は経文を引用しながら「修習の説示の決定」について解説を続けていく。ここに示される「菩薩」理解が先の①と②の例を前提としているものと考えられる。まとめると次の通りである。

【図6】

菩薩ということばが対象とする四種のもの

{	(a)菩提
	(b)衆生
	(c)世俗の菩薩
	(d)勝義の菩薩

7. まとめ

本稿では『三母広注』における「菩薩」理解が示される計三個所の試訳を提示した。本稿で明らかになった点をまとめると次の通りである。

- (a)『三母広注』では「菩薩」を「世俗の菩薩」と「勝義の菩薩」に分ける。ここでの両者の相違点は、初地以前か以後かという点にある（理解①：図2）。
- (b)「如来蔵」説との関連から「衆生」「菩薩」「如来」について説明（理解①・②：図3・4）。また「菩提」と「衆生」の分位の両者を兼ねるのが「菩薩」であると説明する（理解①：図3）。
- (c)「菩薩」という語が対象とするものとして「菩提」「衆生」「世俗の菩薩」「勝義の菩薩」の四種をあげる（理解③：図6）。

また『三母広注』は明言していないが、「三門十一異門」説中に示される菩薩理解が『菩薩地』や『宝性論』の如来蔵説をふまえたものである可能性が高いと考えられる。さらに本稿では『三母広注』における菩薩理解と類似した説がマンジュシュリーキールティ著『三昧王経注』にもみられることを確認した（本稿注12参照）。

なお、本稿で示した事例からも知られる通り、『三母広注』はタイトルを明記せずに多くの経論を引用している。ここで扱った箇所においても『菩薩地』や『金剛般若』、『宝性論』（他、『十地経』もか）からの引用と考えられるものが見られた。『三母広注』（および『十万頌広注』『世尊母伝承随順』）の著者は不明であるが、多くの経論を参照する環境においてこのテキストがまとめられたことが想定される。本稿で扱った『三母広注』等の非アビサマヤ系の般若経注釈文献には不明な点が多く、今後は『三昧王経注』をはじめとした他の注釈文献との影響関係を考慮しつつ解読研究を進めることとしたい。⁽²²⁾

略号と文献

D：デルゲ版カンギユル／テンギユル

L：ロンドン写本カンギユル

P：北京版カンギユル／テンギユル

T：大正新脩大藏経

※蔵訳テキストのうち、デルゲ版と北京版は Buddhist Digital Resource Center (BDRC) 公開のスキャンデータを使用した (<https://www.tbrc.org/#/footer/about/newhome>)。ロンドン写本のテキストは庄司 [2016a] による。また漢訳テキストは大藏経テキストデータベース研究会公開のスキャンデータおよびテキストデータを使用した (<https://21dzk.lu-tokyo.ac.jp/SAT/>)。

一次文献

梵文

AsP: 『八千頌般若』 (*Ārya-*) *Aṣṭasāharikā Prajñāpāramitā* = Wogihara [1932-35]

BBh: 『菩薩地』 *Bodhisattva-bhūmi* = Wogihara [1930-36]

Larger P. (D): 敦煌出土写本 Larger *Prajñāpāramitā*, Dunhuang = Suzuki & Nagashima [2015]

Larger P. (G): ギルギット出土写本 Larger *Prajñāpāramitā*, Gilgit (= LPG) = Zacchetti [2005], Karashima [et. al] [2016], 大乘経典思想研究会 [2021/2022]

PvsP: 『二万五千頌般若』 *Pañcaviṃśatisāhasrikā Prajñāpāramitā* = Kimura [2007/2009]

RGV: 『宝性論』 *Ratna-gotra-vibhāga* = 中村 [1961]

ŚsP: 『十万頌般若』 *Śatasāharikā Prajñāpāramitā* = Ghoṣa [1902~1913]

VcP: 『金剛般若』 *Vajracchedikā Prajñāpāramitā* = 渡辺 [2009]

蔵訳

『十万頌』: 『十万頌般若波羅蜜多』

**Śatasāhasrikā-Prajñāpāramitā*; *Shes rab kyi pha rol tu phyin pa stong phrag brgya pa*, D no.8, vols.14~25 ('bum: ka, kha, ga, nga, ca, cha, ja, nya, ta, tha, da, a); P no.730, vols.26~39 (sher phyin: ra, la, sha, sa, ha, a, kṣa, ki, khi, gi, ngi, ci, chi, ji).

『二万五千頌』: 『二万五千頌般若波羅蜜多』 (カンギユル所収本)

**Pañcaviṃśatisāhasrikā-prajñāpāramitā*; *Shes rab kyi pha rol tu phyin pa stong phrag nyi shu lnga pa*, D no.9, vols.26~28 (nyi khri: ka, kha, ga); P no.731, vols.40~43 (mdo 'grel: nyi, ti, thi, di).

『一万八千頌』: 『聖般若波羅蜜多一万八千頌大乘経』

- **Ārya-aṣṭādaśasāhasrikā-prajñāpāramitā-nāma-mahāyāna-sūtra*; 'Phags pa shes rab kyi pha rol tu phyin pa khri brgyad stong pa zhes bya ba theg pa chen po'i mdo, D no.10, vols.29~31 (khri brgyad: ka, kha, ga); P no.732, vols.44~46 (mdo 'grel: ni, pi, phi).
- 『一万頌』: 『聖般若波羅蜜多一万頌大乘經』
- **Ārya-daśasāhasrikā-prajñāpāramitā-nāma-mahāyāna-sūtra*; 'Phags pa shes rab kyi pha rol tu phyin pa khri ba zhes bya ba theg pa chen po'i mdo, D no.11, vols.31~32 (khri pa: ga, nga); P no.733, vols.46~48 (mdo 'grel: phi, bi).
- 『八千頌』(系統A): 『聖八千頌般若波羅蜜多』
- **Ārya-aṣṭasāhasrikā-prajñāpāramitā*; 'Phags pa shes rab kyi pha rol tu phyin pa brgyad stong pa, L no.647, vol.101 (brgyad stong pa: ka).
- 『八千頌』(系統B): 『聖八千頌般若波羅蜜多』
- **Ārya-aṣṭasāhasrikā-prajñāpāramitā*; 'Phags pa shes rab kyi pha rol tu phyin pa brgyad stong pa, D no.12, vol.33 (brgyad stong: ka); P no.734, vol.48 (sher phyin: mi).
- 『二万五千頌』: 『二万五千頌般若波羅蜜多』(テンギュル所収本)
- **Pañcaviṃśatisāhasrikā-prajñāpāramitā*; 'Shes rab kyi pha rol tu phyin pa stong phrag nyi shu lnga pa, D no.3790, vols.82~84 (mdo 'grel (sher phyin): ga, nga, ca); P no.5188, vols.91~93 (mdo 'grel: ga, nga, ca).
- 『十万頌広注』: 著者不明『般若波羅蜜多十万(頌)広注』
- , **Satasāhasrikā-prajñāpāramitābrhāṭṭikā*; 'Shes rab kyi pha rol tu phyin pa 'bum pa'i rgya cher 'grel pa, D no.3807, vols.90~92 (mdo 'grel (sher phyin): da, na, pa); P no.5205, vols.100~101 (mdo 'grel na, pa).
- 『三母広注』: 著者不明『聖般若波羅蜜多十万(頌)二万五千(頌)一万八千(頌)広注』
- , **Āryasatasāhasrikāpañcaviṃśatisāhasrikāṣṭādaśasāhasrikāprajñāpāramitā-brhāṭṭikā*; 'Phags pa shes rab kyi pha rol tu phyin pa 'bum pa dang nyi khri lnga stong pa dang khri brgyad stong pa'i rgya cher bshad, D no.3808, vol.93 (mdo 'grel (sher phyin): pha); P no.5206, vol.102 (mdo 'grel: pha).
- 『世尊母伝承随順』: ジャガッダラに住む者『世尊母の伝承に随順するものという解説』
- **Jagaddalanivāsin*, **Bhagavatyaṃnāyānusāriṇi-nāma-vyākhyā*; bcom ldan 'das ma'i man ngag gi rjes su 'brang ba zhes bya ba'i rnam par bshad pa, D no.3811, vol.94 (mdo 'grel (sher phyin): ba); P no.5209, vol.103 (mdo 'grel: ba).
- 『三昧王経注』: マンジュシュリーキールティ著『聖一切法自性平等性無戲論三昧王という大乘経の称鬘という注釈』
- **Mañjuśrīkīrti*; 'jam dpal grags pa, **Ārya-sarvadharmasvabhāvasamatāvīpañcitasamādhirāja-nāma-mahāyānasūtra-tīkāktīrtimālā-nāma*; 'Phags pa chos thams cad kyi rang bzhin mnyan pa nyid rnam par spros pa'i ting nge 'dzin gyi rgyal po zhes bya ba theg pa chen po'i mdo'i 'grel pa grags pa'i phreng ba zhes bya ba, D no.4010, vol.117 (mdo 'grel (mdo): nyi); P no.5511, vol.126 (mdo 'grel: nyi).
- 『有為無為決拈』: ダシャバラシュリーミトラ著『有為無為決拈』
- **Daśabalaśrīmitra*; stobs bcu dpal bshes gnyen, **Samskṛtāsamskṛtaviniścaya-nāma*; 'Dus byas dang 'dus ma byas rnam par nges pa zhes bya ba, D no.3897 (dbu ma: ha); P no.5865 (ngo mtshar bstan bcos: nyo).

漢訳

- 『初会』: 玄奘訳『大般若波羅蜜多經: 初會』(大正新脩大藏經 vol.5~6, no.T220(1))
- 『二会』: 玄奘訳『大般若波羅蜜多經: 第二會』(同 vol.7, no.220(2))
- 『三会』: 玄奘訳『大般若波羅蜜多經: 第三會』(同 vol.7, no.220(3))

- 『四会』：玄奘訳『大般若波羅蜜多經：第四會』（同 vol.7, no.220(4)）
 『五会』：玄奘訳『大般若波羅蜜多經：第五會』（同 vol.8, no.220(5)）
 『放光』：無羅叉訳『放光般若經』（同 vol.8, no.221）
 『光讚』：竺法護訳『光讚經』（同 vol.8, no.222）
 『小品』：鳩摩羅什訳『摩訶般若波羅蜜經』（同 vol.8, no.223）
 『道行』：支婁迦讖訳『道行般若經』（同 vol.8, no.224）
 『明度』：支謙訳『大明度無極經』（同 vol.8, no.225）
 『鈔經』：曇摩婢共竺佛念訳『摩訶般若波羅蜜鈔經』（同 vol.8, no.226）
 『小品』：鳩摩羅什訳『摩訶般若波羅蜜經』（同 vol.8, no.227）
 『佛母』：施護訳『佛母出生三法藏般若波羅蜜多經』（同 vol.8, no.228）
 『大智度論』：龍樹造 鳩摩羅什譯『大智度論』（同 vol.25, no.1509）

二次文献

- 阿部宏貴 [2001] 「『大乘莊嚴經論』における四種の発心について：『伽耶山頂經』発心説の受容」『智山学報』50, pp.73-89.
- 磯田熙文 [1996] 「『十万般若広注』と『三母広注』」『勝呂信静博士古稀記念論文集』東京：山喜房佛書林, pp. (17)-(29).
- 梶芳光運 [1980] 『大乘仏教の成立史的研究』東京：山喜房佛書林（初出 [1944]）.
- 加納和雄 [2014] 「『宝性論の展開』」『如来蔵と仏性：シリーズ大乘仏教8』東京：春秋社, pp.205-247.
- グレゴリー・ショーベン（渡辺章悟 [監訳] / 上田昇・加納和雄・計良龍成・崔珍景・松村淳子・米澤嘉康 [訳]）
 [2022] 『インド大乘仏教の虚像と断片』東京：国書刊行会.
- 佐藤堅正 [2021] 「*Śatasāhasrikā Prajñāpāramitā* II-5冒頭の校訂テキストと蔵漢訳対照」『仏教文化研究』65, pp.1-7.
- 庄司史生 [2016a] 『ロンドン写本カンギェル所収チベット語訳『八千頌般若』の研究』（*Bibliotheca Tibetica et Buddhica*, vol.1）東京：山喜房佛書林.
- ____ [2016b] 『八千頌般若經の形成史的研究』東京：山喜房佛書林.
- ____ [2017] 「『世尊母伝承随順』による經典解釈の特徴」*Acta Tibetica et Buddhica* 10, pp. 37-54.
- ____ [2021] 「後期インド仏教における正法五千年説」『印度學佛教學研究』69(2), pp. (149)-(154).
- ____ [2022] 「般若經における衆生」『日本佛教學會年報』86, pp. 49-85.
- ____ [forthcoming] 「般若經注釈文献における如来蔵思想」『印度學佛教學研究』71(2).
- 大乘經典思想研究会 [2021] 「Gilgit 写本 *Larger Prajñāpāramitā* の翻刻研究」『大正大学綜合佛教研究所年報』43, pp.109-235.
- ____ [2022] 「Gilgit 写本 *Larger Prajñāpāramitā* の翻刻研究(2): fols. 38r-53r」『大正大学綜合佛教研究所年報』44, pp.71-149.
- 高崎直道 [1989] 『宝性論』（インド古典叢書）東京：講談社.
- 中村瑞隆 [1961] 『究竟一乘宝性論研究：梵漢対照』東京：山喜房佛書林.
- 林純教 [2000] 『一万頌般若經：蔵文和訳』東京：大東出版社.
- 蜜波羅圭之介 [1974] 「三昧王經の研究（1）：經本文並びに西蔵語訳の註釈書・称鬘（Kirtimālā）の和訳、第1章」『高野山大学論叢』9, pp.45-93.
- 渡辺章悟編 [2009] 『金剛般若經の梵語資料集成』東京：山喜房佛書林.
- Falk, Harry & Karashima, Seishi [2012] "A first-century *Prajñāpāramitā* manuscript from Gandhāra - *parivarta*

- 1 (Texts from the Split Collection 1),” *Annual Report of The International Research Institute for Advanced Buddhism at Soka University* 15, pp.19-69.
- ____ [2013] “A first-century *Prajñāpāramitā* manuscript from Gandhāra - *parivarta* 5 (Texts from the Split Collection 2),” *Annual Report of The International Research Institute for Advanced Buddhism at Soka University* 16, pp.97-169.
- Ghoṣa, Pratāpacandra [1902~1913] *Çatasāhasrikā-Prajñā-Pāramitā: A Theological and Philosophical Discourse of Buddha with his Disciples: In a Hundred-thousand Stanzas, Bibliotheca Indica: A Collection of Oriental Works, New Series*, no. 1006-1007, 1012, 1025, 1040, 1068, 1080, 1092, 1103, 1120, 1123, 1137, 1224, 1242, 1269, 1292, 1330, 1378, 1382, Calcutta: Asiatic Society of Bengal.
- Hori, Shin'ichirō [2020] “A Sanskrit Manuscript of the *Pañcaviṃśatisāhasrikā Prajñāpāramitā* from Eastern India Dated to the Regnal Year 8 of Harivarman,” *Bulletin of the International Institute for Buddhist Studies* 3, pp.53-67.
- Kano, Kazuo [2016] *Buddha-nature and Emptiness: rNgog Blo-lan-shes-rab and a Transmission of the Ratnagotravibhāga from India to Tibet*, Wiener Studien zur Tibetologie und Buddhismuskunde 91, Wien: Universität Wien.
- Karashima, Seishi & Lee, Youngjin & Nagashima, Jundo & Shoji, Fumio & Suzuki, Kenta & Ye, Shaoyong & Zacchetti, Stefano [2016] *Mahāyāna texts : Prajñāpāramitā texts, Gilgit manuscripts in the National Archives of India: facsimile edition*, vol 2, 1, New Delhi, Tokyo: National Archives of India , International Research Institute for Advanced Buddhism, Soka University.
- Kimura, Takayasu [2007] *Pañcaviṃśatisāhasrikā Prajñāpāramitā I-1*. Tokyo: Sankibo Busshorin.
- ____ [2009] *Pañcaviṃśatisāhasrikā Prajñāpāramitā I-2*. Tokyo: Sankibo Busshorin.
- Nakamura, Hodo [2011] “Traditions of the Commentaries Ascribed to Asaṅga and Vasubandhu on the *Abhisamayālaṃkāra*: Relationship with the Commentaries ascribed to Daṃṣṭrasena on the *Prajñāpāramitā*-liteature”, *Journal of Indian and Buddhist Studies* 59(3), pp.1262-1266.
- Sander, Lore [2000] “Fragments of an Aṣṭasāhasrikā manuscripts from the Kuṣāṇa period,” *Manuscripts in the Schøyen Collection I*, Oslo: Hermes Publishing, pp.1-51.
- ____ [2002] “New fragments of an Aṣṭasāhasrikā of the Kuṣāṇa period,” *Manuscripts in the Schøyen Collection III*, Oslo: Hermes Publishing, pp.37-44.
- Suzuki, Kenta & Nagashima, Jundo [2015] “The Dunhuang Manuscript of the *Larger Prajñāpāramitā*”, *The British Library Sanskrit fragments (Buddhist manuscripts from Central Asia)* vol. III.2, Tokyo: International Research Institute for Advanced Buddhism, Soka University, pp.593-821.
- Wogihara, Unrai [ed.] [1930-1936] *Bodhisattvabhūmi : A Statement of Whole Course of the Bodhisattva (being fifteenth section of Yogācārabhūmi)*, Tokyo.
- Zacchetti, Stefano [2005] *In Praise of the Light: A Critical Synoptic Edition with an Annotated Translation of Chapters 1-3 of Dharmarakṣa's Guang zan jing 光讚經, Being the Earliest Chinese Translation of the Larger Prajñāpāramitā*, *Bibliotheca Philologica et Philosophica Buddhica*, vol. 8, Tokyo: International Research Institute for Advanced Buddhism, Soka University.
- ____ [2021] *The Da zhidu lun 大智度論 (*Mahāprajñāpāramitopadeśa) and the History of the Larger Prajñāpāramitā : patterns of textual variation in Mahāyāna Sūtra literature*, edited for publication by Michael Radich and Jonathan Silk, Bochum: Projekt.

注

- (1) 近時の〈般若経〉研究の成果として、梵文『十万頌般若』写本に関する佐藤 [2021]、梵文『二万五千頌般若』写本に関する Hori [2020]、般若経ギルギット写本に関する大乘経典思想研究会 [2021/2022]、また『大智度論』研究として Zaccetti [2021]、そしてインド大乘仏教における『八千頌般若』等の受容に関するショーベン [2022] がある（2005年刊行本からの和訳）。
- (2) 東アジアにおいては、非アビスサマヤ系の般若経注釈文献として『大智度論』が知られる。同論では「大智度論初品中菩薩釋論第八」（T no.1509, vol.25, 84c8ff.）、「大智度論釋句義品第十二」（T no.1509, vol.25, 379b13ff.）にその菩薩理解が示されている。
- (3) 『三母広注』および「三門十一異門」説については、磯田 [1996]、庄司 [2017] 等を参照。『三母広注』と『十万頌広注』の著者問題については Nakamura [2011] に詳しい。
- (4) 詳細については庄司 [2017: 39-40] を参照。
- (5) 後掲の通り、『三母広注』では <1> *shā ri'i bu* <2> *'di la* <3> *byang chub sems dpa'* <4> *sems dpa' chen po* <5> *chos thams cad* <6> *rnam pa thams cad du* <7> *mngon par rdzogs par byang chub par 'dod pas* <8> *shes rab kyi pha rol tu phyin pa la brtson par bya'o* とある。これに対応する〈般若経〉諸本の経文は以下の通りである。

【表1】〈般若経〉諸本対照表①

梵文	ギルギット出土写本	<i>iha sāradvatīp[ra]tra bodhisattvena mahāsattvena sarvākāraṃ sarvadharmān abhisamboddhukāmena prajñāpāramitāyāṃ yogaḥ karaṇīyaḥ</i> (Zaccetti [2005: 375.40-376.1])
	敦煌出土写本	当該箇所が現存しない (Suzuki & Nagashima [2015])。
	パーミヤーン出土写本	当該箇所が現存しない (Sander [2000/2002])。
	ネパール伝世写本校訂本『十万頌』	<i>iha sāradvatīputra bodhisattvena mahāsattvena sarvākārān* sarvadharmān abhisamboddhukāmena prajñāpāramitāyāṃ yogaḥ karaṇīyaḥ</i> / (Ghoṣa [1913: 55.18-19])
	ネパール伝世写本校訂本『二万五千頌』	<i>sarvākāraṃ sārīputra sarvadharmān abhisamboddhukāmena bodhisattvena mahāsattvena prajñāpāramitāyāṃ yogaḥ karaṇīyaḥ. iti samāsataḥ sambodhikāmata-sahagataś cittotpādaḥ</i> (Kimura [2007: 28.6-8])
	ネパール伝世写本校訂本『八千頌』	この一文を含む経文自体が存在しない。
	(パキスタン北部出土ガンダーラー写本)	当該箇所が現存しない (Falk & Karashima [2012/2013])。
蔵訳	カンギェル所収『十万頌』	<i>sha ra dwa ti'i bu 'di la byang chub sems dpa' sems dpa' chen po / chos thams cad rnam pa thams cad du mngon par rdzogs (D36a7) par 'tshang rgya bar 'dod pas / shes rab kyi pha rol tu phyin pa la brtson par bya'o // (D [Ka]36a6-7)</i>
	カンギェル所収『二万五千頌』	<i>sha ra dwa ti'i bu 'di la byang chub sems dpa' sems dpa' chen po chos thams cad rnam pa thams cad du mngon par rdzogs par 'tshang rgya bar 'dod pas (D27b2) shes rab kyi pha rol tu phyin pa la brtson par bya'o // (D [Ka]27b1-2)</i>
	テンギェル所収『二万五千頌』	<i>shā ri'i bu 'di la byang chub sems dpa' sems dpa' chen po chos thams cad rnam pa thams cad du mngon par rdzogs par 'tshang rgya bar 'dod pas shes rab kyi pha rol tu phyin pa la brtson par bya'o zhes bya ba ni yang dag par rdzogs (D26a2) pa'i byang chub 'dod pa dang ldan pa'i sems bskyed pa bsdus te bstan pa'o // (D [Ka]26a1-2)</i>
	カンギェル所収『一万八千頌』	<i>shā ri'i bu 'di la byang chub sems dpa' sems dpa' chen po chos (D11a7) thams cad rnam pa thams cad du mngon par rdzogs par byang chub par 'dod pas shes rab kyi pha rol tu phyin pa la brtson par bya'o // (D [Ka]116a-7)</i>
	カンギェル所収『一万頌』	この一文を含む経文自体が存在しない。

	カンギユル所収『八千頌』(系統A/B)	〃
漢訳	『初会』	若菩薩摩訶薩欲於一切法等覺一切相。當學般若波羅蜜多 (T no.220(1), vol.5, 11c10-11)。
	『二会』	若菩薩摩訶薩。欲於一切法等覺一切相。當學般若波羅蜜多 (T no.220(2), vol.7, 7a26-27)。
	『三会』	若菩薩摩訶薩。欲於諸法等應學般若波羅蜜多。(T.220(3), vol.7, 429b26-27)。
	『四会』	この一文を含む経文自体が存在しない。
	『五会』	〃
	『放光』	菩薩摩訶薩當習行般若波羅蜜 (T no.221, vol.8, 2b29)。
	『光讚』	於斯若有菩薩摩訶薩。便當精修學般若波羅蜜 (T no.222, vol.8, 149a10-11)。
	『大品』	菩薩摩訶薩欲以一切種智知一切法。當習行般若波羅蜜 (T no.223, vol.8, 218c17-19)。
	『道行』	この一文を含む経文自体が存在しない。
	『明度』	〃
	『鈔經』	〃
	『小品』	〃
	『佛母』	〃

以上の通り、ネパール系梵文『二万五千頌般若』には「く2」ここで (iha) が欠けている。このことから、同経では「三門十一異門」説が成り立たないことになる。

なお、当該箇所は、いわゆる「舍利弗品」にあたり (梶芳 [1980: 734ff.] に科判が示される)、『八千頌般若』等の *Smaller Prajñāpāramitā* にはそもそも該当する章が存在しない。『世尊母伝承随順』によれば、『八千頌般若』第一章冒頭部の経文をもって「三門」中の略説としている (庄司 [2017] を参照)。また *Larger Prajñāpāramitā* 諸本の中において特殊な章構成となる『一万頌般若』にも該当箇所を欠く (蔵訳のみが現存する『一万頌般若』には林 [2000] による全訳がある)。

- (6) da ni mdor bstan pa 'di'i tshig gi don bstan par bya'o // <1> shā ri'i bu <2> 'di la <3> byang chub sems dpa' <4> sems dpa' (P43a8) chen po <5> chos thams cad <6> rnam pa thams cad du <7> mngon par rdzogs par byang chub par 'dod pas <8> shes rab kyi pha rol tu phyin pa la brtson par bya'o (D39b3) zhes bya ba de la <1> shā ri'i bu zhes bya ba ni gnas brtan gyi ma'i ming las dras te (P43b1) bos pa'o // <2> 'di la zhes bya ba ni theg pa chen po bstan pa la 'am / shes rab kyi pha rol tu phyin pa bstan pa la bya ste / byang chub sems dpa' sems dpa' chen po theg pa chen po 'di la gnas te zhes bya ba (D39b4) 'am / (P43b2) shes rab kyi pha rol tu phyin pa 'di la zhes bya bar sbyar ro // (D39b2-4; P43a7-b2)
- (7) 『三母広注』が如来蔵を真如の三種の点から論じていること、またそれが『宝性論』第一章四十七偈の存在を窺わせる点については既に加納和雄博士によって指摘されている (加納 [2014: 243], Kano [2016: 38])。
- (8) aho batā 'ham anuttarāṃ samyaksambodhim abhisambudhyeyaṃ sarvasattvānāṃ ca 'rthakaraḥ syāṃ atyantaniṣṭhe nirvāṇe pratiṣṭhāpayeyaṃ tathāgatājñāne ca (Wogihara [1930-36: 12.6-9]).
- (9) *sarva-sattvās tathagata-garbhā* iti (中村 [1961: 49.6-7] ほか) 高崎 [1989: 44] も参照。
『宝性論』では『如来蔵經』から同文を引用しているというが、この『三母広注』では「他の阿闍梨たちの説明」とあることから、『如来蔵經』ではなく『宝性論』から同文を引用しているものと考えられる。
- (10) tat kasya hetoḥ? *tathāgata iti subhūte bhūta-tathatāyā etadadhivacanam* (渡辺 [2009: 94 (Conze ed.)]).
- (11) <3> byang chub sems dpa' zhes bya ba la / byang chub sems dpa' ni rnam pa gnyis te / kun rdzob kyi byang chub sems dpa' dang / don dam pa'i byang chub sems (P43b3) dpa'o // gang gi phyir yang dag

(D39b5) par rdzogs pa'i byang chub dang / sems can la dmigs nas skyes pa'i sems dang po ni|ni: P ni| byang chub dang / sems can la dmigs pa'i phyir byang chub sems dpa' zhes bya'o // sems (P43b4) de gang la yod pa de la yang byang chub sems dpa' zhes bya'o // e ma'o (D39b6) *bdag bla na med pa yang dag par rdzogs pa'i byang chub mngon par rdzogs par sangs rgyas nas sems can thams cad shin tu mthar thug pa'i* (P43b5) *mya ngan las 'das pa la dgod par bya'o* snyam du bsams te / byang chub dang sems can la dmigs nas kun rdzob dang don dam pa'i bden (D39b7) pa gnyis la gnas te shes rab dang snying rje gnyis kyi sems rin po che bskyed pa (P43b6) dang ldan pa'i phyir byang chub sems dpa' zhes bya'o // rab tu dga' ba la sogs pa sems bskyed pa bcu la |P ins. ni| don dam pa'i byang chub sems dpa' zhes bya'o //

slob dpon gzhan dag 'chad pa ni (D40a1) sems can thams cad (P43b7) ni de bzhin gshegs pa'i snying po yin no zhes 'byung bas sems can thams cad ni de bzhin nyid kyis|kyis: P kyiz| rab tu phye ba yin no de bzhin nyid de la yang gnas skabs gsum yod de / [1] ma dag pa'i gnas skabs dang / [2] dag pa dang ma (D40a2) (P43b8) dag pa'i gnas skabs dang / [3] shin tu yongs su dag pa'i gnas skabs so // de la [1] ma dag pa'i gnas skabs ni so so'i skye bo thams cad la byang chub kyi gnas skabs ni med kyi / sems dpa'i gnas skabs (P44a1) 'ba' zhig tu zad pas ni|P om. ni| de bzhin nyid de la sems dpa' (D40a3) zhes bya ba'i ming du brjod do // [2] dag pa dang ma dag pa'i gnas skabs kyi 'phags pa rnam la ni byang chub pa'i gnas skabs dang / sems dpa'i gnas (P44a2) skabs gnyis ka yod de dag pa dang ma dag pa'i de bzhin nyid de la byang chub sems dpa' zhes bya ba'i ming du brjod (D40a4) do // [3] yongs su dag pa'i gnas skabs na ni byang chub kyi gnas skabs 'ba' zhig tu zad pas /|P om. /| (P44a3) de'i tshe de bzhin |P ins. niyd de la de bzhin| gshegs pa zhes bya ba'i ming du brjod de / ji skad du rab 'byor de bzhin gshegs pa zhes bya ba de ni yang dag pa de bzhin nyid kyi tshig bla dvags|dvags: P dags| so zhes gsungs pa lta (D40a5) bu'o // (D39b4-40a5; P43b2-44a3)

(12) このような菩薩理解は、『三昧王経注』にもみられる。

「〈菩薩摩訶薩〉において、何でも菩提 (bodhi) においても薩多 (sattva, 有情) においても所縁があることを〈菩薩 (bodhisattva, 菩提薩埵)〉というのである。その故に、それは一つとして他のものの義利に入るから〈摩訶薩 (mahāsattva, 大有情)〉といわれるのである」(蜜波羅 [1974: 54])

byang chub sems dpa' sems dpa' chen po zhes (P6b6) bya ba la / gang la byang chub |P ins. la| dang sems can la dmigs pa yod pa de la byang (D6a1) chub sems dpa' zhes bya'o // de'i phyir de ni gcig tu gzhan gyi don la zhugs pas sems dpa' chen po zhes bya'o // (D5b7-6a1; P6b5-6)

(13) <3> *byang chub sems dpa'* zhes bya ba la / byang chub sems dpa' ni (P28a4) rnam pa gnyis te / kun rdzob kyi byang chub sems dpa' dang / don dam pa'i byang chub sems dpa'o // de la kun rdzob kyi byang chub sems (D24b4) dpa' ni yang dag par rdzogs pa'i byang chub dang sems can |P ins. la| (P28a5) dmigs nas dang po byang chub tu sems bskyed pa ste / e ma'o *bdag bla na med pa yang dag par rdzogs pa'i byang chub mngon par rdzogs par sangs rgyas nas sems can thams cad shin tu mthar thug* (P28a6) *pa'i mya ngan las* (D24b5) *'das pa la dgod par bya'o* snyam du bsams te / byang chub dang sems can la dmigs nas |P ins. /| shes rab dang snying rje gnyis kyis kun rdzob dang don dam pa'i bden pa gnyis la (P28a7) gnas te / byang chub kyi sems rin po che bskyed pa dang ldan pa ni kun rdzob kyi byang chub sems dpa' (D24b6) zhes bya'o // de la don dam pa'i byang chub sems dpa' zhes bya ba ni byang chub sems (P28a8) dpa'i sa rab tu dga' ba la sogs pa sa bcu'i sems bskyed pa dang ldan pa rnam ni don dam pa'i byang chub sems dpa' zhes bya'o // (D24b3-6; P28a3-8)

(14) ここで「発趣」(jug pa) とある点について、『伽耶山頂経』の経文(阿部 [2001: 76-77]) と関連がある可能性がある。また、『大乘莊嚴経論』発心品における「信解行地の発心」=受世俗発心(『菩薩地』典拠)

と「初地以降の発心」=勝義発心(『十地経』典拠)との指摘があり(阿部 [2001: 73])、『三母広注』はこのような理解を踏まえている可能性がある。今後の課題としたい。

- (15) <3> *byang chub sems dpa' rnams* ni rnam pa gnyis te / kun rdzob kyi byang chub sems dpa' rnams (D16b7) dang don dam pa'i byang chub sems dpa' rnams so // gang gi phyir yang (P19a3) dag par rdzogs pa'i byang chub tu mngon par rdzogs par sangs rgyas nas bdag gis sems can rnams shin tu mthar thug pa'i mya ngan las 'das pa la rab tu gnas par bya'o |P ins. //| zhes yang dag par rdzogs pa'i byang (D17a1) chub (P19a4) dang sems can rnams la dmigs nas dang por 'jug pa'i sems byang chub sems dpa' rnams kyi dmigs pa ste / de'i phyir byang chub sems dpa' zhes brjod do // sems de gang la yod pa de yang byang chub (P19a5) sems dpa' zhes brjod do // (D17a2) *kye ma bdag bla na med pa yang dag par rdzogs pa'i byang chub mngon par rdzogs par sangs rgyas nas sems can thams cad shin tu mthar thug pa'i mya ngan las 'das pa la rab tu* (P19a6) *gnas par bya'o* |P ins. //| zhes byang chub dang sems can la dmigs nas / kun rdzob dang don dam pa'i (D17a3) bden pa gnyis la gnas te / shes rab dang snying rje dag gis bskyed pa'i sems rin po che dang ldan pa'i phyir byang chub (P19a7) sems dpa' zhes brjod do // rab tu dga' ba la sogs pa'i sems bskyed pa bcu ni don dam pa'i byang chub sems dpa' zhes brjod de / (D16b6-17a3; P19a2-7)

- (16) 『宝性論』第一章第四十七偈は次の通りである。

「不浄なると、不浄かつ浄なると、また、極めて清浄なるとは、順次に、衆生界、菩薩、如来であると説かれている」(高崎 [1989: 70])

aśuddho 'suddha-śuddho 'tha suviśuddho yathākramam | sattva-dhātur iti prokto bodhisattvas tathāgataḥ || 47 || (中村 [1961: 77.21-24])

- (17) de bzhin gshegs (D52a4) pa'i (P57b7) snying po zhes bya ba ni de bzhin nyid de la yang gnas skabs gsum ste / [1] byis pa|P om. *byis pa*| so so skye bo'i|bo'i: P bo'i| sa la ma dag pa'i gnas skabs dang / [2] byang chub sems dpa'i sa la dag pa dang ma dag pa'i gnas skabs dang / [3] de bzhin (P57b8) gshegs pa'i sa la dag pa'i gnas skabs rnams|P om. *rnams*| (D52a5) so //

de la [1] ma dag pa'i de bzhin nyid la ni sems can zhes bya ste / de yang kun nas nyon mongs pa'i skyon med pa nyid ces bya'o // [2] dag pa dang ma dag pa'i (P58a1) gnas skabs la ni byang chub sems dpa' zhes bya ste / byang chub kyi gnas skabs dag pa dang / sems can gyi (D52a6) gnas skabs ma dag pa'i phyir ro // de nyid la byang chub sems dpa'i (P58a2) skyon med pa nyid ces bya'o // [3] dag pa'i gnas skabs la ni de bzhin gshegs pa zhes bya ste / *rab 'byor de bzhin gshegs pa zhes bya ba ni yang dag pa de bzhin nyid kyi tshig bla dags so* |P ins. //| zhes 'byung (D52a7) ba'i (P58a3) phyir ro // de nyid la chos skyon med pa nyid ces bya'o // (D52a3-7; P57b6-58a2)

- (18) 詳細については庄司 [2017: 40-41] を参照。

- (19) bam po bcu pa / de ltar brtson pa rnam pa (D110a3) du mchis zhes zhus pa'i tshig rnam par phye ste bstan nas / da ni bshad pa 'di'i gtan la dbab pa gang lags zhes zhus pa'i tshig rnams bstan (P124a7) par bya ste / de la 'di la shā ri'i bu *byang chub sems dpa' sems dpa' chen po chos thams cad rnam pa thams cad du* |P ins. /| *mngon par* (D110a4) *rdzogs par byang chub par 'dod pas / shes rab kyi pha rol tu phyin pa la brtson par* (P124a8) *bya'o* zhes mdor bshad pa dang por skabs phye ba gang yin pa de da 'dir skabs dbye'o // gtan la dbab pa de yang rnam pa gnyis te / tshig gi don dang / mtshan nyid do // (D110a2-4; P124a6-8)

- (20) ここでの引用文に対応する〈般若経〉諸本の経文は以下の通りである。

【表2】〈般若経〉諸本対照表②

梵文	ギルギット出土写本	<i>apadārthaḥ subhūte bodhisattva-pa[ḍ]ārthaḥ</i> (Karashima [et al.][2016: 67]: LPG68r6)
	敦煌出土写本	当該箇所が現存しない (Suzuki & Nagashima [2015])。
	バーミヤーン出土写本	当該箇所が現存しない (Sander [2000/2002])。
	ネパール伝世写本校訂本『十万頌』	<i>apadārthaḥ subhūte bodhisattva-padārthaḥ</i> / (Ghoṣa [1913: 1192.14-15])
	ネパール伝世写本校訂本『二万五千頌』	<i>apadārthaḥ subhūte bodhisattva-padārthaḥ</i> (Kimura [2009: 17.18])
	ネパール伝世写本校訂本『八千頌』	<i>apadārthaḥ subhūte bodhisattva-padārthaḥ</i> (Wogihara [1932-35: 76.9])
	(パキスタン北部出土 ガンダーラー写本)	当該箇所が現存しない (Falk & Karashima [2012/2013])。
蔵訳	カンギユル所収『十万頌』	<i>rab 'byor byang chub sems dpa'i tshig gi don ni / tshig gi don myed pa ste</i> / (D[Ga]28a4-5)
	カンギユル所収『二万五千頌』	<i>rab 'byor byang chub sems dpa'i tshig gi don ni / tshig gi don med pa ste</i> / (D[Ka]178b6)
	テンギユル所収『二万五千頌』	<i>rab 'byor byang chub sems dpa'i tshig gi don ni tshig gi don med pa ste</i> / (D[Ga]176a1)
	カンギユル所収『一万八千頌』	<i>rab 'byor byang chub sems dpa'i gzhi'i don ni gzhi med pa'i don to</i> // (D[Ka]110b1)
	カンギユル所収『一万頌』	<i>sha ra dwa ti'i bu byang chub sems dpa'i gzhi'i don ni gzhi med pa'i don to</i> // (D[Ga]54b3)
	カンギユル所収『八千頌』(系統A/B)	(系統A) この一文は存在しない (L14b2ff.)。 (系統B) <i>rab 'byor byang chub sems dpa'i gzhi'i don ni gzhi'i don med pa yin no</i> // (D10b3; P10b8)
漢訳	『初会』	善現。無句義是菩薩句義 (T no.220(1), vol.5, 255c21)。
	『二会』	善現。無句義是菩薩句義 (T no.220(2), vol.7, 57b12)。
	『三会』	善現。無句義是菩薩句義 (T.220(3), vol.7, 466b17)。
	『四会』	この一文は存在しない (T.220(4), vol.7, 766b6ff.)。
	『五会』	〃 (T.220(5), vol.7, 868a12ff.)。
	『放光』	須菩提。菩薩句義無所有 (T no.221, vol.8, 18b15)。
	『光讚』	須菩提。無誼之句爲菩薩號 (T no.222, vol.8, 178a17-18)。
	『小品』	須菩提。無句義是菩薩句義 (T no.223, vol.8, 241c12)。
	『道行』	この一文は存在しない (T.224, vol.8, 427b12ff.)。
	『明度』	〃 (T.225, vol.8, 480c2ff.)。
	『鈔経』	〃 (T.226, vol.8, 510b4ff.)。
	『小品』	〃 (T.227, vol.8, 538c15ff.)。
	『佛母』	須菩提。當知非句義是菩薩義 (T.228, vol.8, 589c12-13)。

なお、『八千頌般若』等の *Smaller Prajñāpāramitā* 諸本のうち、古系統のテキスト (『四会』・『五会』・『道行』・『明度』・『鈔経』・『小品』・蔵訳系統A) には当該の一文が存在しないことについては、庄司 [2016b: 65-66] を参照。当該箇所は「蔵梵『八千頌般若』所在対照表」(庄司 [2016a: 383ff.]) では § 1.45 にあたる。
(21) de la *rab 'byor byang chub sems dpa'i tshig gi don ni gzhi med pa'i don te zhes bya ba la byang chub sems dpa' rnam la* P om. *la* (D111a3) don rnam pa (P125a8) bzhi yod de / byang chub dang / sems dpa' dang

/ phung po'i bdag nyid du kun rdzob kyi byang chub sems dpa' dang / don dam pa'i byang chub sems dpa'o // de bzhi char yang dngos po med pa'i ngo bo nyid (P125b1) yin pa'i phyir byang chub sems dpa' zhes bya ba'i (D111a4) tshig gi don ni gzhi'i don med pa yin no/no: P te\ // gzhi'i don med pa ni gnas med pa la bya'o // gal te *byang chub sems dpa'* zhes bya ba dngos po'i bdag nyid 'ga' zhig (P125b2) yod par gyur na de'i tshig gi don gzhi dang bcas shing gnas dang bcas par 'gyur ba zhig na / 'di (D111a5) ltar byang chub dang / sems dpa' dang / byang chub sems dpa' gnyis kyang med de / de'i phyir byang chub (P125b3) sems dpa'i tshig gi don gyi gzhi med de /{P om. /} gnas med ces bya ba'i tha tshig go //{//: P /{ (D111a2-5; P125a7-b3)

- (22) 『三母広注』には正法五千年説が示されていることが知られるが(庄司 [2021])、『三昧王経注』においてもほぼ同様の説がみられ (D116a6ff; P134a8ff.)、また『有意無為決択』にも同様の記述がみられる (D313b5-314a4; P265b4-266a5)。このことから、これらの文献間には何らかの影響関係があると考えられる。

謝 辞

本稿は庄司 [2022] 「般若経における衆生」および同 [forthcoming] 「般若経注釈文献における如来蔵思想」と関連し、また第74回日蓮宗教学研究発表大会(令和4年11月4日 於日蓮宗務院第二会場)における口頭発表「『三母広注』の菩薩観」に基づくものである。発表時には望月海慧先生より貴重なご教示を賜った。記して感謝申し上げる。

本研究は JSPS 科研費 [18K12202] [20H01185] による研究成果の一部である。

〈キーワード〉 後期インド仏教, 如来蔵思想, 菩薩, 『三母広注』, 『十万頌広注』, 『世尊母伝承随順』